

特別展示

經典が語る常陸奥郡の中世

—常陸太田市天神林町文殊院蔵「大般若経」の発見—

文殊院蔵「大般若経」(応永8年)

会期・会場

(1)茨城大学展

2024年7月5日(金)～8日(月)

於 茨城大学図書館 展示室

(水戸市文京2-1-1)

開室時間:10:00～16:00



(2)常陸太田市郷土資料館展

2024年7月20日(土)～8月18日(日)

於 常陸太田市郷土資料館梅津会館

(常陸太田市西二町2186)

開館時間:9:00～17:00(ただし入館は16:00まで)

休館日:月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日休館)



【主催】茨城大学人文社会科学部歴史・考古学メジャー / 茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク(茨城史料ネット)
常陸太田市教育委員会 / 常陸太田市天神林町会
【後援】茨城地方史研究会 / 茨城大学中世史研究会

佐竹一族の故郷・佐竹郷（常陸太田市天神林町）に所在する文殊院には、水戸光圀の手で薩都神社から移された、小野崎氏寄進による「大般若経」があると伝えられてきました。2019年、この寺の須弥壇の下から大量の經典類が見つかり、その整理が茨城史料ネットに託されました。コロナ禍による停滞を乗り越え、作業の最終盤の確認作業の中で、残欠の中から、「応永八年」の年紀をもつ小野崎氏寄進の「大般若経」の断片（第291巻の最奥の一紙）が発見されたのです。

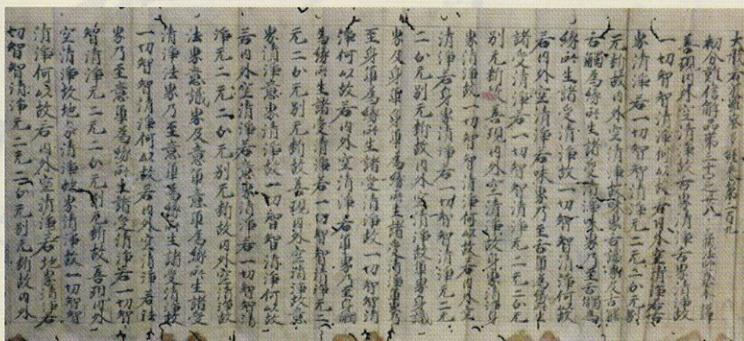


▲文殊院（常陸太田市天神林町）

その後の調査により、それは足利将軍家、足利尊氏・義詮や鎌倉公方、足利基氏・氏満が彫らせた版木を用いた「智感版」という版本経であることが判明しました。佐竹氏や小野崎氏をめぐる歴史に新たな知見を加える発見です。今回の特別展示では、この「大般若経」をはじめとする、文殊院から発見された經典類とはどのような史料なのか、わかりやすく解説します。



▲茨城史料ネットによる整理作業



▲文殊院蔵「大般若経」（鎌倉時代）



▲文殊院蔵「大般若経」（天保8～12年）

主な展示資料

- | | | | |
|------------------|------|--------|------------------|
| ・ 文殊院蔵「大般若経」（断簡） | 紙本墨刷 | 1紙 | 応永8年（1401） |
| ・ 文殊院蔵「大般若経」 | 紙本墨書 | 2巻 | 鎌倉時代 |
| ・ 文殊院蔵「秘鈔」 | 紙本墨書 | 一括 | 永正16年（1519）他 |
| ・ 文殊院蔵「仏遺教経」 | 紙本墨書 | 1冊 | 永禄4年（1561） |
| ・ 文殊院蔵「大般若経」 | 紙本墨書 | 57巻+断簡 | 天保8～12年（1837～41） |

関連企画

茨城大学図書館の土曜アカデミー ギャラリートーク「経典が語る常陸奥郡の中世」

講師 高橋 修（茨城大学教授）+高橋ゼミの学生たち

日時 2024年7月6日（土）13：30～15：00

場所 茨城大学図書館3階ライブラリーホール/1階展示室

※事前申込みが必要です。詳細は茨城大学図書館HPをご確認ください。

常陸太田市郷土資料館 展示解説

日時 2024年8月3日（土）①11：00～ ②13：00～【各30分程度】

場所 常陸太田市郷土資料館梅津会館 1階常設展示室